

## アユの(仮称)攻撃性スレ症(通称;コツキ)における 発症実験と発症防止について

山本 充孝

### ◆背景・目的

本病は全国的には認知されていないが、昭和43年には発生の記録がある滋賀県では周知の疾病であり、通称『コツキ』と呼ばれている。発生原因は『コツキ』の名のとおり、アユが他個体をつつくことで起こると考えられている。

本病はヤナで漁獲したアユを高密度で収容するとアユが配合飼料につくまで発生することが多い。対策は、高密度で収容しない、給餌量・回数を多くし、アユに種々のストレスをかけない飼育を心がけるしかなく、効果的な対処法が求められている。また、ヤナ漁獲アユは冷水病発生以後、短期的な治療が困難で取扱量は減少していたが、加温処理など冷水病対策手法が進展したことや追い強い(友釣りで良く釣れる)とされるヤナ漁獲アユを切望する河川漁協も依然として多いことなどから対策研究が急務となってきた。

### ◆成果の内容・特徴

- 効果的な発症防止方法を検討するためには人為的な本病発症手法の確立が必要であるため、人為発症試験として様々な由来の湖産アユを水量約25Lのコンテナ水槽に13, 25, 50尾ずつ収容して水温18°Cで無給餌で流水飼育したところ、ヤナ漁獲アユは確実に本病が発症し高密度ほど死亡率が高くなることを確認した。
- 発生防止試験では、上記の密度でアユを収容した試験区の他に同じコンテナ水槽にアユを25尾収容し完全に遮光できるフタをした試験区を設けて同様に飼育した。
- 完全遮光した試験区では10日目まで本病を発症しなかったため、通常のコツキフタに交換して飼育したところ、本病が発生した。

### ◆成果の活用・留意点

本病を人為的に発症させることが可能となり、遮光すると発症を防止できることが明らかとなったが、現場では完全な遮光は行えないため、実用的な発症防止方法を考案する必要がある。

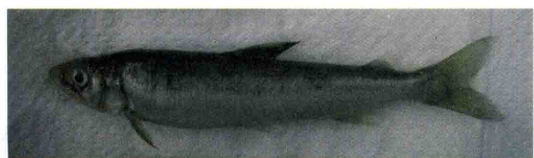


図1 典型的なスレ症状を呈したアユ

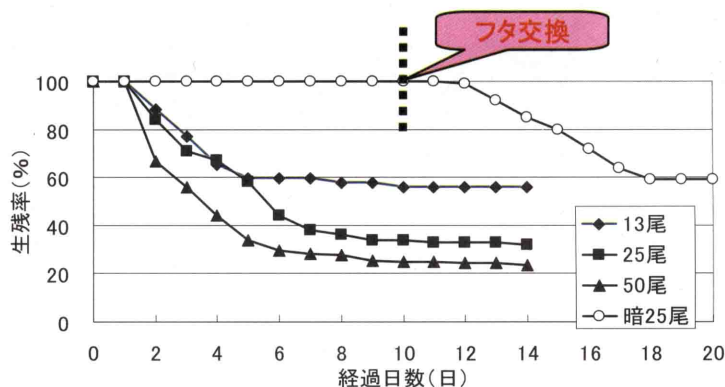


図2 発症防止試験結果